

# FORUM REVIEW AF100

テーマ：建築・都市・土木・情報 4 領域と時間価値  
のデザインをめぐる

講師：内藤廣氏 建築家・東京大学名誉教授

日程：2021年12月6日



早稲田大学大学院修士課程修了。フェルナンド・イゲラス建築設計事務所（スペイン・マドリッド）、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981年内藤廣建築設計事務所設立。2001～2011年東京大学大学院にて、教授・副学長を歴任。主な建築作品に、海の博物館、牧野富太郎記念館、紀尾井清堂など。

—内藤先生にはテーマ基調をお話いただいた上で、予め受講者から寄せられた多くの質問・コメントに答える形で対話的アプローチを試みました。

現代社会において、コンピューターの進化と地球環境の問題という「二つの予測不可能性」と超高齢化巨大都市という「未体験な社会」に対して何を考えるべきかが、基本的な危機意識としてある。20世紀は資本主義を前提に超高層ビルが誕生し、経済成長を追って空間を占有していく価値観が支配してきた。日本では2005年から人口が減少し加速する中で、21世紀がこのままでいいのかという思いの中で時間価値をテーゼに挙げてみた（図1）。

停滞する経済・社会のこの先をどう考えるのか。コロナ禍はそういう意味で我われの社会を少し時間価値に寄せた。参加者からの問いの一つに「100年後の世代に対して、どのようなビジョンを持つべきでしょうか」とあるが、100年前を振り返り100年後を考えたとき、時間軸でどうマネジメントするか、むしろ「どこまで計画を決めないでいけるか」をビジョンにすべきと考える。

アバンとは渋谷のまちづくりで、渋谷駅周辺整備の委員会とは別に、若い人とともに作る shibuya1000 という都市イベントを10年以上続けたが、これで計画が随分柔らかくなったのではないか。まちづくりについて「こんな街になったらいい」という文学的合意の必要性を感じている。文学的合意の中に相互理解があって、そこがまちづくりの土台になるべきだろうと考える。

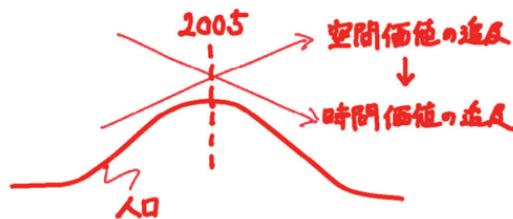


図1 空間価値の追求と時間価値の追求

出典：『クノロデザイン』（彰国社）



図2 講演後のディスカッションも活発で深い議論となりました